



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	巻頭言
Author(s)	桂, 幸昭
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulletin(1): 1-1
Issue Date	1997-11
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42291
Rights	

巻 頭 言

学長 桂 幸 昭

平成3年の大学設置基準の大綱化で大学改革に大きな弾みがついたが、本学の『大学教育センター報』の発刊を機に、今一度、大学改革について考えてみたい。

①大学進学率は平成8年度より1.1%増えて平成9年度は47.3%となり、一層大学教育の大衆化は進んでおり、高等教育のユニバーサル化は喜ばしいことであるが、少子化に伴う進学率の上昇で入学してくる学生は多様化していること、②多様化した学生に対する魅力ある授業を模索した教育方法の改善が求められると同時に、高等教育の国際的水準を確保しなければならないこと、③科学技術の急激な進展に伴う社会的変動に対応できる力と個性を持ち、創造性豊かな人材を養成する必要があること、④地域の特性を生かした教育・研究への取り組みが求められていること、さらに、⑤情報化、国際化、生涯学習への取り組みも高等教育機関の重要な使命であること。

上記の諸問題は新しい理念に基づいた共通教育と専門教育の有機的連携のもとに進められる4年一貫教育の実践と深く係わっていることを忘れてはならない。

本学は、平成9年度の4月から教養部を廃止し、法文学部、教育学部、理学部の改組を伴う大学改革を行い、暫定組織として設置されていた大学教育センターが正式に起動し、共通教育等の企画・調整・連絡・実践などの推進母体として活躍している。

昨今は、国立大学の民営化や法人化論等が新聞紙上をにぎわしている。大学はかつてない教育改革を断行しているところであるが、この真剣な取り組みが社会から十分に理解されるほどには大学と社会の間の壁は低くなっていないようなので、壁を取り除く努力が必要である。

今、本学は、自己点検をして自主的に改革を行

い、98国立大学の中の“一つ”というのみでなく、世界に二つとない特色ある大学の建設に向けて、全員参加の共通教育を中心に大いなる緊張感で意識を改革し、豊かな人間性を涵養する共通教育を重視する教育・研究に邁進しているところである。

共通教育等のカリキュラムの見直しを含む自己点検は、常に必要な課題であり、その意味で、大学教育センターは重大な責務を担っている。その任務と課題の遂行には積極的な全員参加による協力が必要である。

教育・研究が高度化し、国際化、学際化（ボーダーレス）していく中で、大学は総合的判断力を持つ指導者を養成し、社会的要望に応えつつ、専門分野の質の向上を目指さなければならない。教育・研究活動がよく見える壁の低い総合大学、地域の人に大きな希望と明るい夢を与える琉球大学を作るために、特に共通教育等に対する全教官の積極的な協力と参加に期待を寄せるものである。